

業務実績に関する評価意見【項目別】

前橋工科大学 令和2年度業務実績まとめ

評価報告書への記載箇所
 ・全体評価＝ 全体評価記載事項
 ・評価できる事項＝
 項目別評価の特筆すべき事項及び評価できる事項に記載
 ・今後期待する事項＝
 項目別評価の今後に期待する事項
 ・評価できる事項(今後に期待する事項)＝
 内容的には今後に期待する事項だが、意見を集約し評価できる事項に記載
 ・評価の考え方＝ 法人評価と評価委員会評価が異なる事項
 ・項目別評価＝ 項目別評価の評価委員会評価に記載

1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標	①花泉委員長 ②後藤委員 ③伊藤委員 ④梶委員 ⑤川住委員 ⑥高山委員
(1)	教育に関する目標	
ア	学部教育に関する目標	

中期目標 ①学生の効果的な学修活動を支援するため、全ての学科において入学時から卒業までのカリキュラムの明確な体系化と内部質保証のためのPDCAサイクルを確立し、教育の質の向上を図る。また、幅広い教養を養い豊かな人間性を育むとともに、社会環境の変化に柔軟かつ的確に対応できる能力を養い、市内産業分野をはじめとして社会の様々な分野で専門技術者として活躍することのできる人材を育成する。

第二期中期計画	令和2年度年度計画	業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項	
		自己評価	主な実績				
①-1 学修ポートフォリオ等を導入し、取り組みの効果や活用状況の検証等を行い、着実な浸透を図り、学生の効果的な学修活動を支援する。また、教員及び学生相互で修得させる又は修得すべき能力を共有するため、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーに基づき、カリキュラムの体系化を行う。さらに、各科目が負う教育目標を明確化し、教育効果を確認しながら改善につなげる仕組みを構築する。	1	学修ポートフォリオ（令和元年度導入）を活用して、学修度の経過観察を行うとともに、学修度の状況に応じ、ディプロマ・ポリシー達成に向けたカリキュラムの最適化を図る。	B	ディプロマ・ポリシーと科目の関係を示す表と、4年生の単位修得状況及び履修登録状況を参考にして、学修ポートフォリオの適正表示に向けた検討作業を行った。	学修ポートフォリオ活用に向けた検討を進めていることは評価できるが、基となるDPと科目との関係についても検証を行うことが望ましい。(資料にある社会環境工学科の例では、想像力の1-aは循環システム工学1科目で身につけることになっているが、その妥当性の検証も進めるべきではないか)②		②今後に期待する事項
	2	卒業生を対象に実施している学修成果アンケートや文部科学省実施予定の学生調査等を活用して、学修成果を把握するとともに、改善のための取組みを検討する。	B	2月に令和2年度卒業（修了）生向け学修成果アンケートを実施した。外国語力の習得状況を明確にするため、アンケート項目として「本学で修得した外国語力の（自己）評価」を追加した。アンケートの結果、「専門分野の基礎的学力」や「専門分野の研究能力」については、達成状況が8割～9割という結果が得られたが、「外国語に関する知識・理解・運用能力」については、達成状況が約3割という低い結果になったため、今後の改善課題として把握することができた。文部科学省が実施を予定していた学生調査は新型コロナウイルス感染拡大の影響のため、中止となった。	外国語の達成状況が3割の結果に関して、大学としてどう考え、どうするかを明確にした方がよい。④ アンケート結果によれば、学科によって回答率にバラツキがあります。数値目標の達成状況を正しく判断するためにも回答率を上げていただきたい。また、システム生体工学科の回答率が「102.2%」となっているのは重複回答があったということでしょうか?⑥	システム生体工学科の回答率が「102.2%」となっているのは、1名重複回答をした学生がいたため。	④今後に期待する事項 ⑥今後に期待する事項、質問→大学伝達
【担当者（計画遂行責任者）：基礎教育センター運営会議、基礎教育センター協議会】							

中期目標		②基礎教育センターを中心に、初年次教育科目及び基礎教育科目の充実を行い、専門教育を行うために必要な基礎学力の確保を行う						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
2	②-1 基礎教育センターを中心に基礎教育科目のカリキュラム・ポリシーの確立及び科目の充実を図る。また、その後の学修状況からその有効性を検証し、必要に応じて改編する。	3	平成30年度に策定した基礎教育センターカリキュラム・ポリシーに基づいた科目構成や教育方法となっているのか、引き続き検証を行い、必要に応じて改編する。	B	学生便覧の科目構成、科目教育内容、シラバスの講義目標・教育方法などとカリキュラムポリシーとを照らし合わせて検討してみたところ、矛盾する点は無かった。また、教育内容を本学と同等規模のいくつかの他大学のカリキュラムやシラバスと比較してみても、標準的なものであると判断できた。	カリキュラムポリシーとシラバスとの関係について検証したことは評価できる。授業がシラバス通りに実施されたか、シラバスにアセスメントポリシーが明示され、DP、CPIに基づいて何をどのように評価しているのか、検証しているのかは不明であることが気になる。② 前段の「矛盾する点はなかった」という表現について。矛盾が生じることは前提としていないはずなので、ここは「齟齬はなく適切であった」でいかがでしょうか？⑥	授業がシラバスに沿っていたかは学生授業アンケートの当該回答項目にて各教員にチェックしてもらった。またシラバスには教育目標として基礎教育CPの内容が反映されている様、またアセスメントポリシーが明示されている様教務委員会にてチェックした。 「齟齬はなく適切であった」としたい。	②評価できる事項、質問→大学伝達 ⑥大学への意見→大学伝達
3	②-2 専門科目を学ぶ基礎として、また多文化共生社会に必要とされる英語力を確実に身につけさせるため、より効果的な授業を実施する。	4	新入生全員を対象としたTOEIC-IPテストを実施する。	B	TOEIC-IPテストを1年生全員を対象に実施した。 受験率は若干下がったが、ほぼ同等と言える。 受験率向上のために、運営会議で検討し、令和3年度から9月ではなく、4月の入学直後に実施することとした。 未受験の学生に対しては令和3年度から学内のソフトウェアを用い、CBT受験してもらうこととした。	受験率が横ばいとなっている状況で、来期以降の受験率向上のための具体的な対応策を策定したことは評価できると考えます。③ TOEICの点数を英語力の指標とするのであれば、卒業時の目標点数を明確にし、そのための指導をした方がよい。④ 実施時期を4月に変更したことに連動して、未受験者の受験を実施したのであれば、早い時期に実施することに言及してもよいのではないのでしょうか。⑥		③評価できる事項 ④評価できる事項（今後に期待する事項） ⑥大学への意見→大学伝達

3	<p>②-2 専門科目を学ぶ基礎として、また多文化共生社会に必要とされる英語力を確実に身につけさせるため、より効果的な授業を実施する。</p>	5	<p>TOEIC-IPテストの受験状況の分析を行い、受験時期、成績配布方法、料金徴収の是非などを再検討する。また、テスト結果を分析し、基礎的な学力向上と効率の良い教育の両立のため、テスト結果に応じたクラス編成の可能性を検討する。</p>	B	<p>受験状況を単年・経年で、その受験者数、受験率、得点、学科別得点、得点分布、などの視点から分析した。 分析の結果、400点以上の得点をあげている上位学生が約2割居ることが経年分析結果として判明したので、この層の学生のために「英語Cアドバンスト（仮称）」という科目をR4年度から新設することを考えている。 テスト結果に応じたクラス編成についても令和4年度からの学科再編時に合わせて行うことを検討している。ただし、TOEICテスト結果を用いようとする、テストを入学式前に行わなければならない、本学では不可能である。令和3年度から全入試区分で大学入学共通テストを受けさせることになったので、その英語科目の得点によりクラス編成を行うこととする予定である。</p>	<p>・受験結果を分析し、それに基づいた対応策を具体的に策定した点は、前年度からの改善点として評価できると考えます。 ・令和2年度計画では「<u>受験時期、成績配布方法、料金徴収の是非などを再検討する</u>」とありますが、<u>主な実績にそれらの記載がないのですが、検討は行われていますでしょうか。行っている場合、その点に関しての検討事項も記載した方がよろしいかと思います。</u>③ 年度計画では、TOEIC-IPテスト結果によってクラス編成を行う可能性が検討されているが、今後、クラス編成を大学入学共通テストの英語科目の得点によって行うのであれば、TOEIC-IPテストをどう活用するかについて検討が必要と思います。（4月での受験ではなく、従来通り9月に実施して学習効果を検証する方が有効と思います。）⑥</p>	<p>TOEIC-IPテストの受験時期について、1年生は入学直後として実施した。3年生については9月とする方向で進んでいる。成績配布方法は学科ではなく、英語の教員が授業の中でコメント、解説付きで配布する方法で実施した。料金徴収方法としては1年生は入学時の納付金として納入してもらった。3年生については授業料とともに振り込みしてもらうことで進んでいる。 1年時との進捗を測り、また進学・就職の基礎データとして利用できる様に、3年時の9月にもTOEIC-IPテストを受験させることで計画が進んでいる。また、学科再編後2年時のプログラム進学振り分けの選考材料の一部としてTOEICスコアを使用することで進んでいる。</p>	<p>③評価できる事項、全体評価（説明不足）、質問→大学伝達 ⑥評価できる事項（今後に期待する事項）</p>
	<p>【担当者（計画遂行責任者）：基礎教育センター運営会議、基礎教育センター協議会】</p>							

中期目標		③工学の各分野に対する高い関心と基礎的な学力を持ち、将来国内外の社会において活躍したいと考える向上心のある多様な人材を受け入れる。					
第二期中期計画	令和2年度年度計画	業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項	
		自己評価	主な実績				
4	③-1 アドミッション・ポリシーに基づき、入学者選抜を行い、工学を学ぶ基礎を修得し、工学を学びたいと考える多様な学生を受け入れる。また、アドミッション・ポリシーを継続的に検証し、見直す。	6	<p>新入試（共通テスト）に対応した入学者選抜方法の詳細検討を行うとともに、アドミッション・ポリシーに基づき、令和3年度入学者選抜試験を適切かつ確実に実施する。</p>	<p>新入試（共通テスト）では英語のリーディング/リスニングの配点が大学に委ねられたため、これを決定した。</p> <p>また、全学科で、将来構想に基づいて共通テストの使用科目のうち理科を2科目に増やす等の入試改革がなされ、入試科目のバランスが令和元年度と異なるものとなったため、配点を見直した。</p> <p>特別選抜においては、新たに基礎学力検査を導入した。</p> <p>新しく追加されたアドミッション・ポリシーに基づき、選抜試験を適切かつ確実に実施できた。</p>	<p>入試科目増は志願倍率低下のリスクを負うため、その効果の検証は重要である。関連科目における前期試験の成績分布等の他に、「関連科目の授業に対する学生の分かりやすさ」を「教員向け」と「学生向け」で、それぞれアンケート調査をすることも一つの方法として挙げられる。①</p> <p><u>理科を2科目にしたこと、特別選抜に基礎学力検査を導入したことで、効果があるのなら、記載することが重要だと思う。入学して半期たった段階のため、分からないところもあると思うが、認証評価などでは効果がないとなかなかA評価にしてもらえない。効果についてはいかがか。①（評価委員会内）</u></p> <p>APIに基づき入試改革がなされ、選抜試験と実施できたことは評価できる。一方で、入試状況を令和2年度と比較すると、志願者・受験者が減少している。コロナ感染拡大により全国からの受験者が減少したのか、入試改革の影響か、18歳人口減少の影響か、要因を分析する必要がある。退学率改善等、他の指標と合わせ、入試改革の検証を継続する必要がある。②</p> <p>公立の工学部として、入試での理科2科目は当然で、あるべき姿にしたいと思います。（全体評価参照）④</p> <p>第1回の委員会での議論のように、A評価とするには相応のエビデンスが必要と思います。新たな入試改革については、大学側の目的説明とともに、受験生がそれをどのように受け止めたのかを知りたいところです。さしあたり、入学直後の新入生へのアンケートが重要と思います。⑥</p> <p>入試科目の変更や配点の見直しについての評価は、入学した学生の学修状況など、ある程度の長期的な分析が必要であり、導入年度においては志願者数や受験倍率などへの効果の検証にとどまるのではないと思うが、A評価とする根拠が欲しいがいかがか。⑥</p>	<p>成績データ等の蓄積及び検証が必要なため、入試改革の効果については今後、継続的な検討が必要である。今年度1年次の成績が確定した時点で、当座の比較は可能と考える</p> <p>志願者数の増減に影響を及ぼす理由としては、一般的には、「前年度の反動」や「入試科目数の変更」、「募集人員の変更」、「学科の増設・廃止」、「他大学の影響」等さまざまな要因が複雑に絡み合っていると言われており、厳密に原因を特定することは困難と思われる。2021年の大学入試の志願者全体については、大学入学共通テストの志願者数が2020年と比較して22,000人以上減少しているという状況があり、特に既卒者の減少は顕著で、制度変更（センター試験→共通テスト）の影響（共通テスト受験を避けるための現役志向の高まり）があったものと考えられる。本学の場合、2021年においては、一般選抜前期日程の定員減もあり、入試科目数の変更と併せて志願者数の減少の一因となったものと推定される。</p> <p>以上のように、志願者数の増減については、入試科目数の変更も影響を及ぼす一因ではあるが、外的要因も含めた他の要因との関係も認められる。</p> <p>このため、業務実績に記載のとおり入試改革を実施し、それに基づき入学者選抜を実施できたことからA評価とした。</p>	<p>①評価できる事項（今後に期待する事項）、全体評価（説明不足）、質問</p> <p>②評価できる事項</p> <p>④項目別評価、評価できる事項</p> <p>⑥評価できる事項（今後に期待する事項）、全体評価（説明不足）</p>

4	③-1 アドミッション・ポリシーに基づき、入学者選抜を行い、工学を学ぶ基礎を修得し、工学を学びたいと考える多様な学生を受け入れる。また、アドミッション・ポリシーを継続的に検証し、見直す。	7	合否判定において「学力の3要素」を多面的・客観的に評価するシステムを導入する。	B	一般選抜前期日程のWeb出願システムと連携し、志望理由や高校生活の活動の振り返りに関して記述することができるシステムを導入した。これにより、システム上で「学力の3要素」である主体性や協働性等について評価できるようになった。	J-bridge-svsystemの導入が、一般選抜の前期日程のみである理由はあるのでしょうか？⑥	特別選抜や一般選抜後期日程については、面接又は小論文による試験を実施し、その中で主体性や協働性等の評価を行ったため。	⑥質問→大学伝達
		8	工学を学ぶために必要な基礎的学力の維持及び学修意欲の向上を図るため、入学予定者に対して入学前教育を実施する。	B	令和3年度入学予定者のうち、特別選抜及び推薦入試合格者に対し、入学前教育を実施した。 【実施方法】入学前教育実施業者へ委託 【実施内容】各学科において必要な内容を選択し、総合デザイン工学科を除く5学科については数学Ⅲを共通科目とした。 【実施効果】入学後1～2か月の短期で図れるものではなく、今後も継続実施し、長期的な視点で観察していくことが必要。どのような指標による効果測定が有効であるかについては、令和3年度教務委員会において検討予定	基礎的学力が身につけていないため学修に遅れをきたしやすい特別選抜試験の合格者を対象に、令和2年度から数学及び理科の入学前教育を開始したことだが、入学前教育を実施するに至ったデータ分析結果があれば示して欲しい。①（評価委員会内） 入学前教育の効果を測定して、教育内容及び実施の有無を検討したほうが良いと思います。（全体評価参照）④	特別選抜試験による入学予定者は、入学までの期間における学習がおろそかになる可能性が懸念されたので、入学前教育を開始した。したがって、入学前教育の実施に至ったデータ分析結果は特になし。	①質問→大学伝達 ④評価できる事項（今後期待する事項）
【担当者（計画遂行責任者）：入試委員会、教務委員会】								

1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標							
(1)	教育に関する目標							
イ	大学院教育に関する目標							
中期目標		①大学院においては、社会情勢の変化や時代のニーズに対応するとともに、内部進学を促進させるなど4年制の学部との教育的連携を確立し教育の質の向上を図る。また、博士前期課程では、専門的基礎能力の向上と研究能力の養成を行い、博士後期課程では、先駆的・先進的な技術課題に取り組む能力を高め、豊かな創造性と主体性を備えた高度専門技術者及び研究者を育てる。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
5	①-1 学部学生に対して大学院進学ガイダンスを行う等、大学院への進学率の向上や内部進学促進に取り組む。	9	内部進学を促進・増加させるため、広報活動及び環境整備を行う。	B	学部学生に対して大学院進学ガイダンスを実施した。本学博士前期課程を修了し社会人となった卒業生を招聘し、進学の目的やメリット、大学院生活の実情など、実体験について講演していただき、大学院進学意識付けを行うことにより、内部進学を促進した。また、大学院進学希望者が本学教員にアプローチしやすくするため、本学ホームページ（トップページ）に「工学研究科オンデマンド型個別相談会」と題打ったバナーを表示させ、連絡手順の簡素化及び窓口の一元化によって募集活動を充実させた。	内部進学者実績が、R2の倍の62名になったことは評価できる。これにより、中期計画数値目標の(3)博士前期課程入学定員充足率100%を達成し、137.5%となっている。今後は、内部進学者の進学理由を検証し、募集活動の継続的な改善につなげてもらいたい。② 大学院に5割の入学を目指すと言いましたが、期日を決めて、具体的目標としては如何でしょうか。④ 内部進学者が昨年度から倍増したことは嬉しい。この点について分析し、次年度からの学科再編・カリキュラム再編に活かしてほしい。⑥		②評価できる事項 ④評価できる事項（今後期待する事項） ⑥評価できる事項

6	①-2 博士前期課程では、工学部6年制等の動向を踏まえ、学部と博士前期課程における教育的連携を意識したカリキュラムの構築や制度を実施する等、専門的基礎能力の向上と研究能力を養成する。	10	令和4年度予定の学科再編に併せ、学部から博士前期課程の教育的連携を意識したカリキュラム編成の検討に着手するとともに、学内進学者向けにカリキュラムの連携を意識づける制度構築について検討する。	C	<p>令和4年度の学科再編に向け、学部のカリキュラム編成から着手しており、大学院のカリキュラム再編には至れなかった。</p> <p>なお、学部4年次における大学院科目の早期履修制度について、令和3年度後期からの実施に向け検討を進めることを決定した。</p> <p>少なくとも「大学院改組がR4年度の学科再編と同時ではなく、年次進行でR8年度を目指す」という意志決定はなされている。途中経過として、どのような組織を構成し、何を決めたとかを記述し、それについて自己評価をした方が良いと思われる。①</p> <p>令和4年度の学部のカリキュラム再編を優先し、大学院のカリキュラム再編には至らなかったが、学部の学科再編が進んだことは評価できる。内部進学者も増加していることから、令和3年度後期から学部4年時の大学院科目の早期履修制度が着実に実施できるよう、カリキュラム再編を加速してもらいたい。②</p> <p>委員会での説明でもありましたように、大学院のカリキュラム再編については、検討の結果、学部再編の進行状況に合わせて実施することとしたという状況の中で、今回大学院のカリキュラム再編に着手できなかったことは検討の結果であり、業務の遅れではないと思いますので、記載内容を修正して、B評価としてもよろしいかと思います。③</p> <p>C評価の根拠は「検討に着手できなかった」ためでしょうか？ 着手していないのであれば妥当な評価ですが、着手はしていたものの新カリキュラム案の策定という結果を残せなかったという理由でのC評価は厳しいと思います。⑥</p>	<p>①項目別評価、今後に期待する事項、全体評価（説明不足）</p> <p>②今後に期待する事項</p> <p>③項目別評価、今後に期待する事項、全体評価（説明不足）、評価の考え方C→B</p> <p>⑥評価の考え方C→B？</p>
		11	分野横断型シンポジウムを開催し、博士前期課程の学生が学内発表をする場を設け、あわせて異分野との交流を促進するための専攻間の新たな交流機会を創る。また、各専攻の発表における最優秀賞を創設して表彰することにより、研究意欲向上の動機づけとする。	B	分野横断型シンポジウムを令和3年3月1日から3月8日までの期間で、5日間に渡りリモートにより開催した。より活発な議論が行えるよう、令和元年度から開催期間を3日間から5日間に延長し、令和2年度についても継続した。また、令和元年度に創設した優秀な発表に対する表彰について、令和2年度も各専攻から優秀発表者を選考して表彰することで、学生の研究意欲の更なる向上を図った。	

7	①-3 博士後期課程では、国内外の先駆的・先端的な研究に積極的に参画させ、主体的・創造的に課題解決をする能力を養成する。	12	分野横断型シンポジウムを開催し、博士後期課程の学生が学内発表をする場を設けるとともに、時代を特徴づけるテーマによる特別講演会を実施し、先駆的・先進的な研究への参加を喚起する。	B	博士後期課程の4人の学生については、第2日目午前中に前期課程学生の2倍の発表時間(40分)を設け、研究の進捗について詳細に説明することを求め、発表終了後に学長による講評を受けた。これにより、課程最終年度の研究計画について再考することができるようにした。 また、外部講師(会津大学理事長兼学長)を招いて、専門分野に関する先進的な研究活動と、自身の経験に基づく大学運営への取組に係る内容の特別講演会を開催した。最先端のセンサーネットワークに関する講演では、参加者がそれぞれの研究領域での応用を考えるよい機会となり、本学と会津大学との共同研究、連携についてもさまざまな課題の提案をいただいた。		
		13	企業との共同研究や国際学会等に学生を積極的に参加させ、課題解決能力を養成する。	B	共同研究・受託研究の契約を締結し、研究を進める中で、学生及び大学院生が研究補助員等として研究に協力した。 国際学会への参加については学生旅費支援制度により助成を行っているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加を見送った。		
【担当者(計画遂行責任者):教務委員会、広報委員会】							

中期目標		②大学院の入学者を確保するとともに、独創的な発想力と、研究に対する実行力を持ち、専門分野を極めたいという意欲のある人材を受け入れる。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
8	②-1 アドミッション・ポリシーに基づき、入学選抜を行い、入学者を確保する。また、アドミッション・ポリシーを継続的に検証し、見直す。	14	アドミッション・ポリシーと選抜方法との整合性について検証し、必要に応じて見直しを行う。	B	アドミッション・ポリシーに基づき、入学選抜を行い、入学者を確保した。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、7月日程(博士前期課程)の専門科目試験をとりやめ、その代替として面接で専門科目の内容で口頭試問を行うという緊急対応もした。 また、アドミッション・ポリシーと選抜方法との整合性について、大きな問題のないことを確認した。	この時期は入試方法に苦慮されていたと思いますが、面接は対面で行ったのでしょうか? オンラインによって実施するケースもあるので、面接方法について記載しておいた方がよいと思います。⑥	面接は、感染症対策に配慮した上で対面を実施した。	⑥全体評価(説明不足)、質問→大学伝達
【担当者(計画遂行責任者):入試委員会】								

1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標							
(2)	研究に関する目標							
中期目標		①基礎から応用に至る幅広い研究を展開し、その成果を社会に還元することにより、持続可能な社会の発展に貢献する。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
9	①-1 学内をはじめ他大学や民間企業との共同研究を推進し、幅広い研究を実施するとともに、研究の成果を地域の課題解決等に還元する。	15	学科相互・教員相互の連携により学内共同研究の充実を図る。	B	学科相互・教員相互の協働を促進し、本学の教育・研究活動の充実を図ることを目的として、「分野横断型研究事業」を実施した。 また、「重点課題研究費」においては、医療機関との共同研究により、治療法の開発など本学の特色となるような先進的な研究を実施した。			
		16	産官学連携コーディネーターを中心に、関係機関や企業との連携を強化し、共同研究を充実させることで、地域等の課題解決に取り組む。	B	令和元年度に引き続き、前橋市、前橋商工会議所と連携した御用聞き型企業訪問と連携し、地域課題の把握と解決に取り組んだ。群馬大学を中心としたりょうもうアライアンスとの連携については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、メールによる情報共有を行った。 また、共同研究をきっかけに地元企業等と包括連携協定を結び、地域に根差した取組ができる体制を強化した。 さらに、昭和村や嬭恋村、桐生信用金庫、群馬県住宅供給公社と連携し、各地域の課題解決のために共同して取組を行った。	昭和村、嬭恋村との取り組みは地域貢献として評価できる。④		④評価できる事項
		17	研究業績の一元管理を行うため、各教員に対して研究実績等を研究業績管理システムに適時入力するよう啓発を行う。	B	教員が随時入力可能な研究業績管理システムにより管理を行った。研究委員会で情報更新を随時行うよう3度周知を行った。	3度の周知によって、研究業績の入力状況がどうなったかについての説明があった方がよいと思います。⑥	55名の教員が研究業績管理システムの更新を行い、最新の情報を公開した。	⑥全体評価（説明不足）、大学への意見→大学伝達
		18	研究の成果を社会に還元するため、学術団体論文誌等への論文投稿数を全学で令和元年度と同程度にする。	B	研究委員会において論文等の投稿や作品等の製作を奨励した。	確認です。ここでの投稿数とは、文字通り投稿数であって、採択数ではないということでしょうか？⑥	採択数ではなく、投稿数というご認識で間違いありません。	⑥質問→大学伝達
【担当者（計画遂行責任者）：研究委員会】								

中期目標		②研究活動の向上を目的として、分野別や個別の研究にとどまらず、学内共同研究や分野横断的な研究の促進を図るとともに、科学研究費補助金等の競争的資金の獲得拡充を図る。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
10	②-1 学内共同研究や分野横断研究の推進、競争的資金の獲得拡充に向け、講習会を実施する等、支援制度の充実や支援体制の構築をする。	19	科学研究費助成事業への応募率を向上させるため、学内説明会を開催する。	B	ロバスト・ジャパン(株)への委託による講演会を令和2年9月17日(木)にZoomにて開催し、科学研究費の近年の動向や、申請書の書き方等の講演を行った。講演会及び動画視聴期間終了後に回収したアンケートでは、「良かった」、「非常に良かった」と回答した教員の合計が100%となった。	中期計画数値目標(6) 科研費申請率100%に対し、R2年度は68%である。講演会の出席との相関があるのはいか。数値目標達成の手立てを具体的にどうしていくのか、講演会出席など、具体的取組との関連から検討する必要があるのではないか。②		②今後に期待する事項
		20	科学研究費助成事業への採択率を向上させるため、外部業者による添削支援を実施する。	B	令和元年度に引き続き、ロバスト・ジャパン(株)への委託による申請書の添削支援を実施した。令和2年度の添削支援の申込件数は8件、添削支援実施者は7人。			
		21	科学研究費助成事業への応募率向上や採択率向上を目的とした取組について、その効果を検証し、令和3年度に実施する支援内容の検討を行う。	B	科研費講演会及び添削支援について、令和2年度も引き続き実施・検証し、研究委員会において支援内容について検討を行った。令和3年度科学研究費の採択率等の結果を受けて、開始から3年間の効果を検証し、支援方法について検討することとなった。			
【担当者(計画遂行責任者): 研究委員会】								

中期目標		③産官学連携による学内外との組織的研究を積極的に実施する。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
11	③-1 周辺の教育研究機関、民間企業、前橋市等の行政機関との連携を強化し、共同研究の充実を図る。	22	前橋市、前橋商工会議所と緊密に連携をとり、御用聞き型企業訪問事業を実施する。	B	前橋市、前橋商工会議所と連携しながら、産官学連携コーディネーターを中心に事業を実施し、共同研究に結び付けることができた。令和2年度はオンラインミーティングを活用するなど、新型コロナウイルス感染拡大の中でも新たなツールを活用することで事業継続を図った。今後も引き続き相談を実施し、共同研究に結び付けて行く。	御用聞き型企業訪問は延べ訪問企業数だけでなく、「何社に対して延べ何回訪問」とした方が評価しやすい。また、実績が出たところがあれば表に出した方がよい。④		④大学への意見→大学伝達
		23	りょうもうアライアンス（群馬大学、足利大学、群馬高専）を活用し、関係機関や金融機関、民間企業との連携を強化するとともに、外部機関との新たな協力体制の構築を検討し、共同研究の充実を図る。	B	りょうもうアライアンスについて、新型コロナウイルス感染拡大防止による在宅勤務や関係機関間の通信体制が整わないため、メールによる情報共有を行った。また、群馬県、金融機関、民間企業と連携し、県内研究機関のシーズ情報発信の場を開拓した。			
【担当者（計画遂行責任者）：研究委員会、地域連携推進センター会議】								

1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標
(3)	地域貢献に関する目標

中期目標		①地域の教育機関、周辺大学及び産官学との連携を推進するとともに、市内産業等の喫緊のニーズを把握した上で地域社会への貢献を果たし、地域の活性化を図る。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
12	①-1 企業訪問等を通して、地域企業の課題やニーズを把握し、本学教員の研究領域とのマッチングや他教育研究機関との連携を行い、課題解決に向け取り組む。	24	産官学連携コーディネーターを中心として、積極的な企業訪問と様々な媒体での技術相談窓口の周知を行い、本学の地域活性化研究事業や共同研究、前橋市をはじめとした支援機関で実施している施策情報等を活用した地域企業への支援を行う。	B	産官学連携コーディネーターを中心に137件の企業訪問を行った。また、令和2年度はオンラインミーティングを活用するなど、新型コロナウイルス感染拡大の中でも新たなツールを活用することで事業継続を図った。技術相談については、前橋工科大学地域連携推進センターチラシやHPで周知を行い、16件の技術相談があった。また、本学での対応可能課題について相談を受けるだけでなく、前橋市や群馬県の助成金等に関する案内も行った。			
		25	めぶく。まえばしプラットフォーム（市内六大学、前橋市、前橋商工会議所）において情報共有を行い、課題解決に向け連携して取り組む。	B	7月13日に第4回協議会、10月5日に第5回協議会を実施し、活動方針について協議を行った。また、10月に総務部会とリカレント部会を設置し、活動を開始した。10月24日には合同FDSD研修を実施し、教職員の能力向上に連携して取り組んだ。			
【担当者（計画遂行責任者）：地域連携推進センター会議】								

中期目標		②地域貢献に関する意欲を高めるため、地方自治体等が行う各種事業に教員や学生を積極的に参画させる。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
13	②-1 公開講座やこども科学教室等の市民を対象とした地域貢献事業を実施し、学生の社会活動への意識を醸成するとともに、教育や研究の成果を広く社会に還元する。	26	工学に関心のある市民を対象とした専門講座を開催する。	B	希望学科による専門講座を開催した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoomによるオンライン形式で開催した。今後、より多くの方々に参加していただける開催方法を検討していく。	全体評価参照。④		④評価できる事項
		27	市民の方の生涯学習の場として、また研究成果や教育成果を市民の方に知ってもらう機会として、公開講座を開催する。	B	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoomによるオンライン形式で開催した。対面で行っていた令和元年度までの受講者の参加が減少してしまった反面、新たな参加者を獲得することができた。今後、より多くの方々に参加していただける開催方法を検討していく。	全体評価参照。④		④評価できる事項
		28	こどもの理科への関心を高め、楽しみながら理科・科学技術の夢や面白さを知ってもらうことを目的に、こども科学教室を開催する。	B	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、キャンパス開催を中止し、オンラインこども科学教室を実施した。大学の公式Youtubeチャンネルにおいて、8月3日～20日に科学実験等の動画を配信した。令和3年度以降、対面、オンライン、ハイブリッド等、開催方法の検討を行うほか、オンラインの際の動画配信方法についても検討する。	こども科学教室を動画配信したことは高く評価する。コロナ禍で学校以外での学びが難しくなった子どもたちに対し、学ぶ機会を提供できたことは地域貢献としても大きな意味があったと考える。② 全体評価参照。④		②評価できる事項 ④評価できる事項
		29	学びたい大人を対象に、地元地区（上川淵、下川淵等）との連携により「おとなの科学教室」を開催する。	C	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度は中止とした。令和3年度以降、オンライン形式も含めた開催方法を検討する。	オンラインの活用など、新しい開催方式の検討が必要である。① 令和元年度に新たに実施した事業が新型コロナウイルスの影響で中止となったことは非常に残念ですが、地元地区との繋がりを途切れさせないためにも令和3年度以降も何らかの形で継続できればと思います。③ 代替措置を講じることが叶わず、0評価はやむを得ないと思います。⑥		①項目別評価、今後に期待する事項 ③項目別評価、今後に期待する事項 ⑥項目別評価

14	②-2 前橋市をはじめとする地方公共団体等が実施する各種事業について、情報収集を行い、教職員・学生に広く周知を行い、積極的に各種事業に参加させ、地域社会の一員としての役割を果たす。	30	前橋市をはじめとする地方公共団体が実施する各種事業の情報を収集し、教職員・学生に周知を行う。	B	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地方公共団体が実施するイベント等が中止となり活動を行えない状況であったが、随時情報収集に努めた。 令和2年度から広報まえばしのワカモノ記者として、学生1人が市民編集のページの作成に参加している。 1月には群馬トヨペットと連携し、東公民館において開催する親子向け講座において学生5人がスタッフとして参加する予定であったが、群馬県の社会経済活動再開に向けたガイドラインの警戒度4移行に伴い、事業を中止した。		
		31	地域貢献学生スタッフの登録学生を増やすため、広報及び情報提供を強化するとともに一層の活動の充実化を図る。	B	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、新入生のガイダンスでは周知ができなかったが、4月及び11月に学生専用サイトにて周知を行った。 また、地域貢献学生スタッフから意見を募集し、12月に大学の自主活動を企画したが、群馬県の社会経済活動再開に向けたガイドラインの警戒度4移行に伴い、中止した。		
		32	こども科学教室の運営に学生を参画させ、コミュニケーション、プレゼンテーション、デザイン及びプロデュースの能力の養成をする。	B	科学実験等の企画・作成を通し、子供達に楽しんでもらうにはどうしたらよいかを考え実行することで、各種スキルを育んだ。特に新型コロナウイルス感染拡大の影響により、動画配信としたため、これまで以上にわかりやすく伝える方法を考え取り組んだ。	全体評価参照。④	④評価できる事項
		33	地元地区が主催する連携事業に対し、教職員・学生の積極的参加を推進する。	B	下川淵公民館、永明公民館及び総社公民館が主催する事業に教員を講師、学生を補助講師として派遣し、地域連携事業を行った。		
	【担当者（計画遂行責任者）：地域連携推進センター会議】						

1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標							
(4)	国際交流に関する目標							
中期目標		①海外の大学・研究機関等との教員相互の連携を深めるとともに、留学生の受入、学生の留学環境の整備などを通じて教員・学生の国際交流を実施することで、研究と教育の充実を図る。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
15	①-1 共同研究の充実や教育上の国際交流を図るため、海外の大学等研究機関との連携を強化するとともに、教員・学生への支援制度を充実させる。	34	共同研究や教育上の国際交流の充実のため、協定等に基づき、海外の大学への教員・学生の派遣や受入を行う。	C	令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、海外の大学との交流を全て見送った。なお、令和2年度に期限を迎えたダナン大学工科大学との交流については、継続して行うこととし、協定を締結した。	海外渡航ができないことを前提とし、オンラインを活用した新しい国際交流システムの構築が望まれる。年度計画自体も、今後、そのように変えていく必要がある。① 現在の新型コロナウイルスの状況からすると、海外大学への派遣や受入、語学研修等への参加は令和3年度も難しいと考えます。そのため、委員会でもお話がありましたオンラインでの交流や語学研修などの代替措置の実現ができるような取組の検討は必要だと思います。③ 交流の見送りにより、C評価はやむを得ないと思います。代替措置として、オンラインによる交流の可能性を模索してもよいのではないのでしょうか？⑥		①項目別評価、今後に期待する事項 ③項目別評価、今後に期待する事項 ⑥項目別評価、今後に期待する事項
15	①-1 共同研究の充実や教育上の国際交流を図るため、海外の大学等研究機関との連携を強化するとともに、教員・学生への支援制度を充実させる。	35	海外語学研修に参加する学生に対し、渡航費補助等の経済的支援を行う。	C	国による出国制限や、業務縮小により旅行会社からの留学パッケージの提供がなかったことなどにより未実施となった。 令和3年度に向けた検討は進めているが、令和2年度と同様の状況が見込まれることから、学生の安全確保を最優先に検討を進めたい。	海外渡航ができないことを前提とし、オンラインを活用した新しい語学研修システムの構築が望まれる。年度計画自体も、今後、そのように変えていく必要がある。① No. 34と同一③ 実際の留学は困難な状況ですが、オンラインによる語学研修プログラムを提供している大学もあるので、選択肢とする可能性があると思います。⑥		①項目別評価、今後に期待する事項 ③項目別評価、今後に期待する事項 ⑥項目別評価、今後に期待する事項
	【担当者（計画遂行責任者）：地域連携推進センター会議】							

1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標							
(5)	教員の資質向上に関する目標							
中期目標		①教員の教育力の向上を目的とした研修等の取組を、組織をあげて積極的に行う。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
16	①-1 教員相互の授業参観や授業改善アンケートの実施等、FD活動の充実を図り、組織的な教育力向上に取り組む。	36	授業内容・授業方法の改善を目的として、教員相互の授業参観を実施する。	B	<p>前期は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、遠隔授業対応及び学事日程の変更のため、実施しなかった。</p> <p>後期については、11月23日から12月19日までの期間で実施した。</p> <p>授業参観に参加した教員から授業参観を受けた教員宛に、参考になった点や改善点などのアドバイスを送ってもらい、そのアドバイスに対する感想を事務局に提出してもらった。実際に授業改善に活用するかは、担当教員に委ねている。</p> <p>教員の参加率は46.3%であった。後期は学事日程が立て込んでいたり、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加を見送った教員も見受けられ、令和元年度と比較し参加率が下がったのではないかとと思われる。</p>	<p>授業参観の対象となったのは対面による通常形式の授業でしょうか？ オンライン授業は対象とはならなかったのでしょうか？⑥</p>	<p>令和2年度については、後期の11月23日から12月19日までの期間で対面授業での授業参観を実施した。授業参観の実施期間は事前に決めており、上記期間中は対面授業期間であったため、オンライン授業での授業参観については実施していない。</p> <p>なお、令和3年度前期にオンライン授業を対象とした授業参観を実施した。</p>	⑥質問→大学伝達
		37	学生の意見を授業改善に活用するため、学生情報システムにより授業改善アンケートを実施する。	B	<p>前期は、補講期間・期末試験期間又は授業最終日にアンケートを実施した。学生の回答率は、講義・演習科目については53.8%、実験・実習科目については38.1%、合計で52.0%であった。実験・実習科目の回答率が低いのは、前半の授業が遠隔授業となり、講義形態が例年とかなり異なったことも影響しているのではないかとと思われる。</p> <p>後期も同様に実施し、学生の回答率は、講義・演習科目については49.2%、実験・実習科目については46.3%、合計で48.8%であった。後期は、アンケート回答期間が遠隔授業期間中であったため、授業画面とアンケート回答画面の切り替えが必要となってしまったこともあり回答が伸びなかったのではないかとと思われる。</p> <p>アンケートの結果を授業担当教員に開示し、結果に対する自己評価や授業の改善策を事務局に提出してもらった。実際に結果を授業改善に活用するかは、担当教員に委ねている。</p> <p>なお、回答率を上げるために、アンケートの回答可能期間を休暇期間中まで延長したり、学生情報システムで複数回督促の掲示及びメールを行った。後期については、アンケート期間が遠隔授業期間中であったため、遠隔授業中に画面共有するための学生用のアンケート回答マニュアルを作成した。</p>	<p>遠隔授業について、教員にはその実施に関してのアンケート(資料29)が実施されていますが、今回の学生への授業アンケートには遠隔授業に関する質問項目は用意されていたのでしょうか？⑥</p>	<p>学生への授業改善アンケートでも、以下のような遠隔授業に関する質問項目を設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義の遠隔授業には、どのようなツールが用いられていましたか。 ・遠隔授業の講義中、重要なポイントがわかりやすく示されていましたか。 ・遠隔授業の講義中や講義の前後において、講義内容に対する学生の理解度を確認するような配慮(小テストの実施等を含む。)がされていましたか。 ・遠隔授業の講義中や講義の前後において、教員とコミュニケーションが取れるような配慮がされていましたか。 ・リアルタイム配信や動画配信の遠隔授業において、教員の話し方の聞き取りやすさ、画面の表示は適切でしたか。 ・Zoom等の動画、パワーポイント、テキスト、配布資料等の活用は効果的でしたか。 ・遠隔授業という形態は、あなたの学修において有効であると感じましたか。 <p>(遠隔授業と対面授業の比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業の方が資料が見やすい。 ・遠隔授業の方が課題の提出がしやすい。 ・遠隔授業の方が教員とのコミュニケーションがスムーズにできる。 ・遠隔授業の方が学生同士のグループワークや議論がスムーズにできる。 	⑥質問→大学伝達

16	①-1 教員相互の授業参観や授業改善アンケートの実施等、FD活動の充実を図り、組織的な教育力向上に取り組む。	38	外部FD研修参加者による学内報告会を実施し、研修で得た知見を他の教員へ共有する。	B	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加を予定した研修会は多くが開催されず、教員1人のみが外部研修（大学セミナーハウス主催「新任教員セミナー（オンライン開催）」に参加した。参加した研修の内容を共有するため、11月18日に学内報告会を実施した。 教員の出席率は、約91%であった。			
	【担当者（計画遂行責任者）：FD委員会】							

中期目標		②教員の人事評価制度については、研究の成果や実績だけでなく、教育や地域貢献活動における業績等の幅広い活動実績を総合的に評価できる制度とする。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
17	②-1 教員の人事評価については、教育・研究・地域貢献につながるような総合的な評価制度とし、評価の方法及び評価結果の活用について常に検証し、改善する。	39	人事評価の検証を行い、必要に応じて見直しを行う。	B	4月に教員人事評価説明会を実施し、5月に目標設定シートをとりまとめた。2月末に各教員の自己評価シートをとりまとめ、3月下旬に最終評価を実施した。 令和元年度期末面談の意見を踏まえ、自己評価シートの評価基準及び自己評価以外の評価の基準について見直しを行い、令和3年度から適用することとなった。			
		40	A評価となった教員への処遇の反映について、引き続き処遇内容を検討する。	B	教員人事評価で高い評価を受けた教員に対する措置について検討し、学長賞（教員活動表彰）を創設し、令和3年度から表彰を行うこととなった。	教員と研究の質向上に繋がると期待できる。④		④評価できる事項
	【担当者（計画遂行責任者）：総務委員会】							

中期目標		③教員の採用については、公募制の厳正な運用により、大学にとって有用な人材の確保及び育成を図る。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
18	③-1 教員の採用については、公募を原則とし、適正な採用方針を定めて実施する。また、新規採用した教員の育成体制を構築する。	41	令和元年度に検討した学科再編案に基づき、本学に最もふさわしい教員を採用する。	B	令和3年度4月着任の教員を4人採用した。 学科再編を考慮し、現行学科にとられない幅広い可能性のある分野の教員を採用した。 ①都市計画＋都市防災 ②情報工学＋情報通信 ③医工学分野＋感性工学 ④情報工学＋宇宙工学			
		42	新規採用した教員を中心に、学外での研修に参加させる。	B	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった研修もあったが、オンライン研修会への参加や動画配信サービスなどを活用し、令和2年4月に着任した全教員（3人）が教育力の修得及び向上を目的とした学外研修に参加した。			
	【担当者（計画遂行責任者）：部局長会議】							

2 業務運営の改善及び効率化に関する目標								
中期目標		①教職員一人一人が、組織における役割を理解し、業務運営の改善及び効率化に向けて取り組む。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
19	①-1 SD活動の充実を図り、全ての教職員が大学運営に必要な知識・技能を身につけるとともに、組織的に業務運営の改善及び効率化に取り組む。	43	大学運営に必要な知識を見つけるため、研修会の開催又は外部研修への教職員の参加等を行う。	B	10月に共愛学園前橋国際大学で開催された「地域における大学間連携に関するFDSD研修会」に参加した。 11月にハラスメント防止、PROG受検結果に基づく学生への対応方法をテーマに学内研修会を開催した。 大学運営に必要な知識を習得するため、公立大学協会の主催する研修会・セミナーに事務局職員が参加した。 教育関係共同利用拠点提供プログラムの機関利用を開始し、1人の教職員が受講した。			
【担当者（計画遂行責任者）：FD委員会、事務局】								

中期目標								
中期目標		②簡素で効率的な業務運営が図れる組織体制を構築するとともに、意思決定過程を明確化し、より開かれた組織運営を目指す。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
20	②-1 事務運営組織については、業務効率化について常に検証し、必要に応じて見直す。業務の意思決定に当たっては、事務決裁規程その他の法令・規則に従い事務を行う。	44	令和元年度に実施した事務局の機構改革後の状況を検証し、更に簡素で効率的な組織となるよう引き続き検討する。	B	毎月の時間外勤務の時間を確認し、業務の偏重状況などを確認した。4、5月は遠隔授業への対応などのため、一時的な業務量の増加はあったが、その他の時期では昨年度と比較して時間外勤務が減少していることが確認できた。			
20	②-1 事務運営組織については、業務効率化について常に検証し、必要に応じて見直す。業務の意思決定に当たっては、事務決裁規程その他の法令・規則に従い事務を行う。	45	意思決定過程を簡略化し、明確にするため委員会の合同開催を継続する。	B	令和元年度に引き続き、研究委員会と地域連携推進センター会議を合同で開催し、委員会開催の効率化を図った。 群馬県の社会経済活動再開に向けたガイドラインの警戒度の状況によっては、委員会の開催をオンライン開催に切り替えるなど、滞りなく委員会を開催することができた。			
21	②-2 業務の効率化を目的として、県内公立4大学での合同研修会の実施等、他大学等との連携を図る。	46	県内公立4大学で実施しているSD研修会に参加する。	B	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県内公立4大学の合同SD研修会は中止となった。 県内大学間連携では、めぶく。プラットフォーム前橋主催のFD/SD研修会（対面・オンライン併用開催）に教職員13人が参加し、群馬大学主催の大学経営戦略セミナーに教職員13人が参加した。			
【担当者（計画遂行責任者）：事務局】								

中期目標		③教育・研究上の基本組織は、社会情勢の変化や時代のニーズに柔軟に対応するため、必要に応じて改組及び改編を検討する。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
22	③-1 「公立大学法人前橋工科大学の中期目標の期間の終了時の検討の結果に基づく措置」で指示のあった学科改編について早急に取り組むとともに、社会情勢の変化や時代のニーズに対応している組織となっているか検証し、効率的かつ効果的な教育研究組織へ改編する。	47	令和元年度に検討した学科改編案について、届出部会及び教務、入試等の部会を立上げ、文部科学省への届出に向けて詳細な検討を実施する。	B	5月に学科再編等準備委員会、総務部会、教務部会、入試部会及び学生部会を立ち上げ、文部科学省への届出の準備、教務、入試及び学生指導の検討に着手した。 新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の影響もあり、当初のスケジュールからの変更を余儀なくされたが、令和4年度の再編に向け、令和3年度中に文部科学省への届出を予定している。 入試については1月に変更の予告を行うなど、令和3年に実施する選抜試験について、詳細の検討に着手した。	学科再編後の教育によって、より社会が求める人材が卒業してくることを期待します。④		④今後に期待する事項
【担当者（計画遂行責任者）：評価・改善委員会】								

中期目標		④教職員数について、中長期的な視点で人員計画を策定し、業務運営を的確かつ効率的に行うために必要な体制を整える。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
23	④-1 教職員数について、教育の質保証と研究の展開、大学への社会からの要望等に応えるとともに、学科改編等の指示を踏まえ、人員計画を策定し、検証する。	48	学科再編等に対応できる戦略的な人事計画を作成する。	B	大学職員としての能力向上や専門性の蓄積などを目的として、プロパー職員の採用を1年前倒しして、令和4年4月1日付けで3人採用するよう人事計画を改正した。人事計画に基づき、令和3年度にプロパー職員の採用試験を行う予定である。			
【担当者（計画遂行責任者）：部局長会議】								

中期目標		①財務情報の公開等による透明化を図るとともに、財務運営の効率化を図り、法人としての信頼性の確保と経営基盤を強化する。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
3	財務内容の改善に関する目標							
24	①-1 地方独立行政法人会計基準に則した財務諸表等を作成し、設立団体の承認後速やかに公表する。また、事業の評価・検証を適時行い、財務運営の効率化を図る。	49	地方独立行政法人法会計基準に則り、令和元年度決算に係る財務諸表を作成し、6月中に前橋市へ提出する。	B	地方独立行政法人会計基準に則り、令和元年度財務諸表案及び決算報告書案を作成し、6月9日の監査を経て、6月25日の経営審議会にて了承を得た。6月29日に前橋市へ決算案として提出し、7月29日に決算承認を得た。			
		50	財務諸表について、前橋市承認後大学掲示板にて掲示するとともに、大学HPにて公表する。	B	令和元年度財務諸表について、7月29日に市から決算承認を得た後、速やかに必要な内部事務を進め、8月4日に大学掲示板における公告及びホームページでの公表を行った。			
【担当者（計画遂行責任者）：事務局】								

中期目標		②自主的かつ自律的な大学運営を行うため、外部資金の積極的な獲得を図り、大学運営に必要な財源を確保する。					
第二期中期計画	令和2年度年度計画	業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項	
		自己評価	主な実績				
25	②-1 外部資金、競争的資金に関する情報を広く収集し、学内に情報提供をするとともに、申請を支援するための体制を構築する。	51	外部資金等の情報収集を積極的に行い、学内グループウェアで情報提供を行う。	B	外部資金等について、マッチングサービス等を活用して収集した情報を、学内グループウェアにて随時周知を行った。情報提供の効果として、競争的資金への応募や企業技術ニーズへの対応申出があった。		
	52	企業訪問やビジネス交流会への参加を積極的に行うほか、外部資金等の情報収集・情報提供を行うことで、共同研究・受託研究等における間接経費（総額）について、過去2年度の平均額以上を目指す。	B	産官学連携コーディネーターを中心に企業訪問を行うとともに、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインでの企業面談も行った。ビジネス交流会については新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くのものが中止になったが、オンライン開催に変更となった東和銀行のビジネス交流会に2人が参加した。 また、マッチングサービスや外部助成金等の情報を随時学内グループウェアにて周知を行い、外部資金の獲得に努めた。 共同研究等に積極的に取り組んだが、共同・受託研究等の間接経費の目標額（過去2年間の平均：2,243千円）を下回った。共同研究の間接経費については過去2年間の平均額を上回っているが、市（隔年で実施する通行量調査など）等から委託を受けて行う受託研究の実績が無かったことが要因となっている。また、令和元年度に新設した学術指導については大幅に実績が伸びた。	自己評価結果に同意します。一方で、年度計画に記載されている「共同・受託研究等における間接経費について、過去2年度の平均額以上を目指す」とありますが、実際は目標額を下回っています。理由として、「受託研究実績が無かったため」としていますが、受託研究実績をゼロとしないための対応策等があれば記載した方がよろしいかと思えます。③	受託研究については、民間機関等からの委託を受けて業務として行う受動的な研究です。一方、共同研究は本学と民間機関等の共通の課題について共同して研究を行うものです。民間機関等としましては、研究成果について本学との共同研究の成果であることを世間に周知できますので受託研究よりも共同研究を望まれ、このような背景から委託者は前橋市などの自治体がメインとなっているのが現状です。とは言え、受託研究をゼロとしないためにも産官学連携コーディネーターを通して制度の周知に努めてまいりたいと思えます。	③大学への意見→大学伝達
	53	マッチングサービス等の活用により、本学が保有する開放特許や技術情報を広く周知し、実施料や外部資金獲得を目指す。	B	マッチングデータベースを活用し、本学教員の技術情報を登録し公開するとともに、本学HPに保有特許を掲載し周知を図っている。また、民間の技術移転会社への登録を検討したが、費用対効果を考慮し登録を見送った。今後、引き続き検討する。 共同研究先企業が、本学との共有特許を使用した製品の商品化を予定しているため、令和3年6月～7月の締結を目的に実施契約の具体的な交渉を行っている。	企業と共同特許を使用した商品が世に出るよう取り組んで、大学の實力と知名度が上がることに期待します。④	④今後に期待する事項	

26	<p>②-2 同窓会や市内企業との連携の下、(仮称)前橋工科大学振興基金を創設し、教育研究活動における経済的援助をはじめとした学生支援の充実や学修環境の整備等を行う。</p>	54	<p>令和元年度に創設したふるさと納税(大学支援メニュー新設)について、収入額が増えるよう周知を行うとともに、収入金額に応じて学生支援、国際交流及び学修環境等の充実を図る。また、令和元年度に創設された一般財団法人前橋工科大学研究教育振興財団と大学振興のために協同する。</p>	<p>B</p> <p>令和2年度の市からのふるさと納税交付金は、新型コロナウイルス感染症対策のための学生支援として、6月末からの対面授業再開に向け、学生が安全安心に学生生活を送れるよう、食堂・メイビットホールへのアクリルパーテーション設置、学生配布用フェイスシールドに活用した。</p> <p>また、独自作成したパンフレットを会報に同封して同窓会員へ配布したほか、群馬県東京事務所・大阪事務所、ぐんまちゃん家、けやきウオーク前橋で配架するなど広く制度周知を行い、令和2年12月末現在で令和元年度(2,221千円)を大きく上回る4,286千円の寄附が集まった。</p> <p>一方、令和2年1月に創設された一般財団は、新たに「地元企業と学生を巻き込んだ大学活性化プロジェクト」の募集を教員向けに行い、5人6件の申請があり、3件(計900千円)を採択・助成した。</p>			
	【担当者(計画遂行責任者):地域連携推進センター会議、事務局】						

中期目標		③大学の管理運営業務の効率化や、人員配置の適正化等により、管理的経費の抑制を図る。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
27	③-1 人員計画に基づく適正な人員配置を行った上で、業務等の見直しを絶えず進め、管理的経費を節減する。	55	サマーレビューを実施し、既存業務の見直し、翌年度の重点的な業務実施について検討する。	B	<p>8月に大学全体のサマーレビューを、9月に事務局業務に関するサマーレビューを実施した。</p> <p>大学全体のサマーレビューでは、7件の議題について審査を行い、教室使用方法の見直しを目的とした教室整備計画の策定（令和2年度実施済み）及び防災マニュアルの策定（令和3年度実施予定）を実施することとなった。</p> <p>事務局サマーレビューでは、5件の議題について審査を行い、遠隔授業の実施を目的とした教室整備及び多目的ホールの整備を実施することとなった。その他広報事業及び衛生委員会の見直しなどを行った。</p>			
		56	契約方法・購入方法の見直しを適宜行い、経費の抑制と契約購入事務の適正化を図る。	B	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、遠隔授業及び対面授業再開に関する経費や消毒等保健に関する経費等について、早期に事務局内で必要内容の把握・協議を行い、予算手当の意思決定を迅速に進めたことで、適正な契約手続のもと、必要物品等を予定価格内で着実に入手できた。</p> <p>事務局内の照明器具をLED化することにより、消費電力等のランニングコストにおいて約58%（メーカーカタログ値）の削減を進めた。1号館4階及び5階吹き抜け部分に遮光フィルムを設置し、効果測定では設置前と比較し20℃以上の室温抑制が確認でき、冷房効率上昇が図れた。</p> <p>また、緊急事態宣言下や入構規制実施期間中は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入札書の提出を郵送又は持参による事前提出としたことで、業者や職員の感染予防を図りながら、滞りなく契約手続を進めることができた。</p>			
【担当者（計画遂行責任者）：事務局】								

4	自己点検・評価及び情報公開に関する目標							
中期目標		①自己点検・評価の実施に加え、第三者評価を定期的に受け、これらの評価結果を公表するとともに、評価結果を踏まえ、大学運営の改善に取り組む。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
28	①-1 各事業年度について、大学の自己点検・評価を実施するとともに、認証評価機関及び外部評価委員等の第三者機関による評価を受ける。評価結果については、大学ホームページで公表するとともに、年度計画等に反映し、大学運営の改善に取り組む。	57	大学教育質保証・評価センターの実施する認証評価の基準等を参考に自己点検評価を実施する。	B	大学教育質保証・評価センターの認証評価基準を参考に、令和元年度の教育などの状況について自己点検評価を実施した。 (大学教育質保証・評価センターは公立大学協会が設立した認証評価機関であり、公立大学の実情に即した評価が期待できる評価機関であることから、本学では令和4年度に大学教育質保証・評価センターの認証評価を受審予定)			
		58	自己点検評価及び評価委員会による評価結果を大学HPで公表する。	B	自己点検評価を実施し、評価報告書を11月に大学のホームページで公表した。 法人評価委員会による評価報告書を11月に受領し、受領後直ちに大学HPで公表した。			
29	①-2 自己点検評価や外部評価の結果について、各年度の年度計画に反映する等、評価・改善委員会を中心に、大学運営の改善に組織的に取り組むとともに、その後の改善状況等について継続的な検証を行う。	59	評価委員会による評価結果を令和3年度年度計画に反映する等、業務運営の改善に反映するとともに、反映状況を大学HPで公表する。	B	法人評価委員会による業務実績に関する評価報告書について、評価改善委員会で共有するとともに、指摘事項について対応を検討するよう各委員会に指示をした。 各委員会で指摘事項への対応を検討し、令和3年度年度計画をはじめ業務運営の改善に反映し、反映状況を大学HPで公表した。			
【担当者（計画遂行責任者）：評価・改善委員会】								

中期目標		②市民や地域社会に対する説明責任を果たすため、大学の研究成果や社会活動状況をはじめ、法人の組織及び運営等の各種情報を積極的に公開する。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
30	②-1 各種法人情報や本学教員の教育、研究分野、研究実績及び地域貢献に関する実績等を分かりやすい形で、大学ホームページ等で公表する。	60	各種法人情報や教育、教員の研究分野、研究実績及び地域貢献への取組状況等をデジタルパンフレットにまとめ、大学HPで発信する。	B	学長インタビュー、企業との連携協定、新任教員紹介などを掲載したデジタルパンフレットを大学HP上で発信した。			
		61	研究業績管理システムを公開し、教員の教育・研究分野、研究実績等を広く公開する。	B	研究業績管理システムを教員が随時更新するよう啓発を行い、常に最新の情報を積極的に公開した。			
【担当者（計画遂行責任者）：広報委員会、地域連携推進センター会議、研究委員会、事務局】								

5	その他業務運営に関する重要な目標							
中期目標		①卒業認定・学位授与方針に基づく修学の成果を生かすため、学生の就職に係る相談及び支援の体制の充実を図る。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
31	①-1 学生の進路実現を支援するため、就職活動に関する学内セミナーの開催やインターンシップに積極的に参画させるための取り組みを行う等、学生への支援体制を充実させるとともに、学生の基礎的・汎用的能力の向上に取り組む。	62	就職活動に関する学内セミナーや合同企業説明会などを開催し、就職採用活動の動向を踏まえた就職支援を行う。	B	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、授業が実施できなかった期間（4月、5月）には、就職情報会社等からの情報をUNIPA（学生情報システム）で配信するなどして情報提供を行った。</p> <p>授業実施期には、対面型、オンライン型を併用し、状況に応じてセミナーを実施したが、参加者数としては減少した。</p> <p>学生の就職活動支援では、キャリアセンター内にタブレット端末を設置（1台）し、学生のオンライン面接やオンライン説明会への参加を支援した（予約制）。また、学生からの相談、模擬面接については、メールやオンラインでの対応も行った。</p> <p>学内合同企業説明会（3月）については、オンライン開催とした。</p>			
		63	インターンシップ参加の促進、キャリア形成の視点の確立等のため、セミナーの開催等を継続的に企画する。	B	<p>インターンシップに関するセミナーを開催したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、夏のインターンシップを実施しない企業、公的機関が多く、また、大学としてもインターンシップ科目は実施されなかったため、大学が管理しているインターンシップ参加者は減少した。インターンシップ情報については、大学に届いたものをUNIPA（学生情報システム）等で発信しているが、学生に対しては、自ら情報収集することの重要性も指導した。</p> <p>企業側ではオンライン説明会といった形式でインターンシップ的なイベント（就業体験を伴わないもの）を開催し、そこには多くの学生が参加したものと思われるため、アンケートにより実績調査を行った。</p>			
		64	企業との情報交換会に積極的に参加し、企業情報を収集するとともに、就業体験を伴うインターンシップの実施及び求人情報の提供を依頼する。	B	<p>対面型、オンライン型と形式は様々だが、参加可能な情報交換会に参加した。参加企業からは前向きな話をいただいているが、先の見通しは不透明であり、動向を注視してきた。</p> <p>本学に郵送、メール等で届き、UNIPA（学生情報システム）に登録した求人票は延べ866件であった。インターンシップについては、数値把握はしていないが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、例年より減少した。</p>			

31	①-1 学生の進路実現を支援するため、就職活動に関する学内セミナーの開催やインターンシップに積極的に参画させるための取り組みを行う等、学生への支援体制を充実させるとともに、学生の基礎的・汎用的能力の向上に取り組む。	65	学修到達度の把握、自己分析など、学生のキャリア形成の充実を目的として、各学年でアセスメントテスト等を実施する。	B	1年生、3年生対象のアセスメントテスト（SPI性格検査及びPROG）はオンライン形式で実施した。2年生対象のテストはセミナー内での実施を予定していたが、セミナーが開催できなかったため未実施となった。 3年生のアセスメントテストの結果については、UNIPA（学生情報システム）に登録し、学生が確認できるようにした。	2年生のオンライン受検の機会を設けることはできなかったのでしょうか？また、1年生の受検率が低いのは例年の傾向でしょうか？⑥	2年生対象については、セミナー内でオンライン受検後、その結果に基づきワークをする想定でのテストでした。令和2年度についてはオンラインセミナーの準備ができなかったため未実施となりました。 1年生については新入生ガイダンス当日に対面実施を予定していましたが、4月当初のガイダンス、授業等が実施できなかったため、オンラインに変更して実施しました。1年生にはメール等でオンライン受検の案内を発信しましたが、大学からの情報を確認する方法についての周知がうまくいかなかったため、受検率は低下しました。	⑥質問→大学 伝達
		66	アセスメントテストの結果を蓄積・評価し、今後の支援体制等について検討を行う。	B	テスト結果に基づき当該学年の傾向を確認した。 数値として弱い部分については、学科再編の検討（カリキュラム・学生指導）の際のデータとして活用することとした。			
32	①-2 市内・県内企業を対象とした業界・業種説明会の開催やインターンシップ受入の依頼等を行い、市内・県内就職を希望する学生への支援を行うとともに、学生と市内・県内企業とのマッチングの場を設ける。	67	市内・県内企業に対し、業界・業種研究会への参加要請及び学内合同企業説明会の実施広報を行い、大学と企業の接点を拡大するとともに、学生の企業研究を支援する。	B	業界・業種研究会については、新型コロナウイルス感染症がやや収まっている時期であったが、市内・県内に本社、活動拠点を持つ企業のみを対象に参加を依頼し、参加企業数、参加学生数ともに制限をかけて実施した。 学内合同企業説明会についても対面実施想定だったため参加企業数を削減して準備を進めたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加予定企業を対象にオンラインで実施することを2月に決定し、3月に実施した。			
		68	市内・県内企業へのインターンシップ参加者数を増やすため、企業及び業界団体に対して積極的な受入を依頼する等、働きかけを行う。	B	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、企業等との接触が減少したことにより、積極的な働きかけができなかった。 企業側も新しい方式でのインターンシップ等（就業体験を伴わない説明会等を含む。）を模索し、動き出していたことから情報収集を行った。			
33	①-3 多様化する学生の悩みに対応するため、相談体制の強化や環境整備を行う等、学生の心身両面を支援する体制の充実を図る。	69	多様化する学生相談に対し、適切な対応が取れるように学内外の協力体制を構築するとともに、学生情報システムを有効に活用する。	B	案件に応じて学科等を含めた対策会議を実施することとした。 相談事業案内等については学生情報システムで行い、周知を図った。 遠隔授業の受講に伴う経費のほか修学などに有効活用してもらうため、留学生を含む全ての学部生・大学院生を対象に学生支援金（一律3万円）を支給した。			
	【担当者（計画遂行責任者）：学生委員会、キャリアセンター運営委員会】							

中期目標		②大学の知名度を向上させるため、特徴のある教育や研究成果、社会活動、就職状況等を積極的に発信する。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
34	②-1 大学の特徴的な成果を積極的に発信し、大学の知名度向上につなげる。	70	広報の基本戦略をグループウェアで周知し、戦略に基づいた広報活動を実施する。	B	広報の本戦略をグループウェアで周知し、戦略に基づいた広報活動を実施した。特に、多様な広報媒体への拡大に取り組み、YouTube上でのWEBオープンキャンパスの動画配信やTwitter上での図書館情報の発信を開始した。	全体評価参照。④		④評価できる事項
		71	Instagram等のSNSを活用し、積極的に情報発信する。	B	Instagramで47件、LINEで13件、Twitterで140件の情報発信を行った。	全体評価参照。④		④評価できる事項
		72	教員・学生の受賞歴や各学科での活動実績報告等を大学HP及びSNSで情報発信する。	B	大学HPから46件情報発信を行った。SNSについては、No.71のとおり	全体評価参照。④		④評価できる事項
35	②-2 オープンキャンパスや高校教員向け説明会の開催、大学訪問の積極的な受入等、学生獲得に係る取り組みを実施する。	73	高校生向けにオープンキャンパスを実施するとともに、これまでの状況等の分析を行い内容を充実させるための検討を行う。	B	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年度当初にWeb上によるオープンキャンパスを実施することを決定し、HP上でキャンパス紹介、学科案内、模擬講義などの大学紹介や、制度や過去の実績等を含む入試説明などを行った。			
		74	高校の進路指導担当者向けに説明会を行い、大学のPRや入試制度変更に関する周知を行う。	B	集合型の高校教員説明会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できなかったが、過去の受験実績校等に対し、入試関連資料等を送付し、入試についての説明を実施した。	今後はオンライン説明会が重要性を増してくると思われます。学科再編が予定されているので、積極的な情報発信が必要でしょう。⑥		⑥今後に期待する事項
		75	本学在校生の出身高校への訪問及び高校生の大学訪問の積極的な受入れを行う。	B	本学在校生の出身高校への訪問は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できなかった。 大学訪問は、11月に1件、12月に1件の計2件を受け入れた。 その他高校への出張講義や進学説明会など、参加できる機会を捉え、積極的に入試広報を実施した。			
【担当者（計画遂行責任者）：広報委員会】								

中期目標		③学生の安全確保のため、施設の維持管理を適切に行うとともに、災害発生時や大学の知的財産流出等の恐れが生じた際の危機管理体制を確立し、迅速かつ的確な対応が組織的に見える体制を整える。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
36	③-1 大学の安全・機能確保のため、建物・設備の適切な維持管理を行うとともに、施設のバリアフリー化や省エネ設備等の導入を推進する。また、各種規程及び危機管理マニュアルを随時見直し、災害発生時等の非常時・緊急時に迅速かつ適正な対応のとれる体制を構築する。	76	各種法定点検や前橋市予防保全計画推進プログラムに基づく施設点検を行い、必要に応じて修繕等の対応を行う。	B	年間を通じて施設維持に必要な法定点検を適切に実施し、5月に予防保全計画推進プログラムに基づく施設点検を実施した。この際、発覚した異常箇所については、修繕の優先度を前橋市と相談しつつ、実践することができた。なお、比較的、劣化程度の浅いものや緊急度の低いもの等、優先度の低い箇所については、日常的に点検を行い、劣化状況の把握に努めている。 【令和2年度に実施した法定点検】 ・建築設備点検・防火設備点検・昇降設備点検 ・浄化槽設備点検・自家用電気工作物点検 ・貯水槽点検・消防設備等点検 【修繕の実施状況】 ・令和2年度修繕台帳 ・予防保全プログラムに基づく施設点検と修繕対応			
		77	学生の安全確保のための対策および防犯対策を随時見直し、バリアフリー化を推進するなど、計画的な施設整備を行う。	B	体育館入口にAEDを新規設置（令和2年5月）した。 総合防災訓練時において、消防職員を講師とし、教職員を対象にAEDの使用方法等に関する救命講習会を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講師派遣ができず中止となったため、令和3年度に実施する予定である。 1号館1階多目的トイレをオストメイト対応の設備に改修（令和2年9月11日工事完了）	着々とバリアフリー化を進めていることは評価出来るが、例えば、車いすの学生をいつまでに募集できるようにするのかなど、具体的な目標を立てることが好ましい。④	④今後に期待する事項	

36	③-1 大学の安全・機能確保のため、建物・設備の適切な維持管理を行うとともに、施設のバリアフリー化や省エネ設備等の導入を推進する。また、各種規程及び危機管理マニュアルを随時見直し、災害発生時等の非常時・緊急時に迅速かつ適正な対応のとれる体制を構築する。	78	大学の機能維持のため、老朽化した設備について、計画的に予防保全、修繕を行うとともに予算規模、工事内容等を踏まえ、必要に応じて前橋市と協議する。	B	令和2年度に予定していた老朽化設備の更新工事は予定通り着手し、実施することができた。 5月に予防保全プログラムに基づく施設点検を実施し、不具合があり、修繕・工事が必要な箇所について整理を行った。また、前橋市建築住宅課と学内施設の修繕の優先度について協議を行い、早急に修繕が必要と思われる箇所については大学にて修繕を実施した。大規模工事が必要な箇所は、令和3年度に実施することとなった。 【令和2年度に実施した大型工事】 ・3号館空調改修工事、4号館空調改修工事（市負担） ・1号館事務局LED化工事（大学負担） ・前橋工科大学電話交換機更新（市負担） 【令和3年度に実施予定の大型工事】 ・構内外灯LED化工事（大学負担） ・実験棟2地下ピット止水工事（市負担）			
		79	災害発生時の配備態勢を明確にし教職員に周知する。また総合避難訓練やシェイクアウト訓練を実施することにより、災害発生時に対応できるよう教職員・学生への啓発を行う。	B	令和2年9月25日に総合防災訓練及びシェイクアウト訓練を実施し、事務局職員の配備態勢を明確にした。結果については学内委員会（総務委員会）にて教職員への周知を図った。 また、教職員に対してはサイボウズ掲示板にて、学生に対してはUNIPA（学生情報システム）にて、地震や火災発生時の初動対応及び避難経路、消火器具の位置を掲載し、事前周知を図った上で、緊急時の対応方法について啓発を行った。			
		80	1号館4、5階共有部の高温（東側がガラス面のため、夏場に室内が高温になりイベント等の実施に支障を来している）対策のため、ガラス面に遮熱フィルムを設置し、効果を検証する。	A	【遮光フィルム設置箇所】 1号館4、5階廊下共有部分（工期：令和2年4月から6月まで） 3号館2階332教員用サーバー室（工期：令和2年6月） 5号館4階543教室（工期：令和2年7月） 【効果検証について】 1号館4、5階廊下部分の設置前と設置後の室温について比較検証を行った。遮光フィルムのない廊下の室温が最大57度であったのに対し、設置後の室温は、35度と室温上昇を大きく抑えることができた。	自己評価結果に同意します。室温等の比較検証を行い、効果について具体的な数値を検証した結果、大きな効果を確認できたことは評価できると思います。③		③評価できる事項
	【担当者（計画遂行責任者）：総務委員会、事務局】							

中期目標		④大学の施設及び設備については、学生の学ぶ環境を向上させるための整備や改修を計画的に実施する。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
37	④-1 ICカードの導入等、学修環境の情報化を推進するとともに、教育ニーズや学生からのニーズを把握し、多様な形態による教育の実施及び学生の学修支援の充実を目的とした教育環境を整備する。	81	教室規模や利用方法に合わせた教室整備を実施し、学修環境の向上を図る。	A	<p>大教室1室について、ホワイトボードの2段化を行った。</p> <p>学生の卒業研究の一環で、5号館4階1教室に遮熱フィルムを設置し、その効果について比較検証を行い、研究を通じて学修環境の向上を図ることができた。</p> <p>建築学科の堤研究室が、教室整備計画策定のための調査を行い、その内容について報告書を作成した。</p>	<p>遮熱フィルムの設置による費用対効果(光熱費を削減できた等)のデータはあるのか。①(評価委員会内)</p> <p>計画の実施手段として、遮熱フィルムの設置による比較検証を卒業研究の一環として実施したり、教室整備に関する調査やそれに基づく整備計画の策定を学生の研究題材として行い報告書としてまとめていることは、大学の特色を生かした取組として評価できると思います。③</p> <p>大教室のホワイトボードを2段化したことによるメリットは何でしょうか？ A評価につながる説明がほしい。⑥</p>	<p>エアコン電力量比較による光熱水費の費用対効果は下記のとおり</p> <p><測定結果> 8月18日 前橋市の最高気温 37.5℃ 543教室において、遮熱フィルム無しの時の電力量と遮熱フィルム有りの時の電力量で約30%の削減となった。</p> <p><設置効果> 現在：1ヶ月の5号館エアコンの電力量 7,800kwh ⇒遮熱フィルム設置により、2,340kwhの電力量削減が見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月から11月まで冷房を使用した場合 年38万円の電気代削減(投資費用はおおよそ20年で回収可能) ・空調機器の長寿命化につながる。 <p>平成29年に5号館4階542講義室の黒板が見えづらいという意見があり、試行的にホワイトボードの2段化を実施し、学生及び教職員から見づらさが解消したとの意見があったため、1号館の中でも利用頻度の高い142教室のホワイトボードの改修を行った。</p> <p>フィルム工事や教室整備計画同様に、学生及び教職員からのニーズに基づき、検証を行い、学習環境向上の効果が高い教室について整備をしたことからA評価とした。</p>	<p>①質問→大学伝達</p> <p>③項目別評価、評価できる事項</p> <p>⑥全体評価(説明不足)、質問→大学伝達</p>
		82	次期学内ネットワーク更改について、要件定義等を精査し基本設計を実施する。	B	令和2年度当初に学内NW更改WGを立ち上げ、委託事業者と月2回の定例会を実施した。また、ICTマネジメント推進会議及び図書・情報センター委員会にて、学内の意見の取りまとめ及び意思決定等を行った。			

37	④-1 ICカードの導入等、学修環境の情報化を推進するとともに、教育ニーズや学生からのニーズを把握し、多様な形態による教育の実施及び学生の学修支援の充実を目的とした教育環境を整備する。	83	体育館夏季利用者の利便性向上を目的として、建物内に大型扇風機を整備する。	B	大型扇風機を8台購入し、体育館に設置した。夏季体育館利用者の熱中症対策に加え、新型コロナウイルス感染症対策として利用し、体育館の通常利用時のみならず、学内イベント開催時の施設内換気にも活用することができた。				
38	④-2 耐震性能に課題があり、また設備老朽化の著しい図書館及び2号館の施設再整備に向けた整備方針を定め、整備内容及び整備スケジュールについて前橋市と協議する。	84	図書館及び2号館の施設再整備について、前橋市と協議するために、学内の要望をとりまとめる。	B	図書・情報センター委員会及び教育研究審議会にて施設整備に関する要望などをとりまとめた。2号館・図書館施設整備検討ワーキンググループを立ち上げ、要望などを踏まえ、新棟に必要な機能、規模、建物周辺の整備などについて検討した。 ワーキンググループなどでの検討結果を受け、施設整備基本計画の検討に着手するとともに、整備時期などについて前橋市と協議を開始した。				
【担当者（計画遂行責任者）：総務委員会、教務委員会】									

中期目標		⑤大学におけるコンプライアンス（法令遵守）を推進し、不祥事や事故等の防止を徹底する。また、人権の尊重、男女共同参画の推進、環境への配慮など大学として社会的責任を果たす体制を整備する。						
第二期中期計画		令和2年度年度計画		業務の実績		評価意見等	大学追加回答	評価報告書への記載事項
				自己評価	主な実績			
39	⑤-1 大学における不祥事や事故を防止するため、教職員を対象にコンプライアンスやハラスメントに関する研修等を実施するとともに、人権の尊重、男女共同参画の推進、環境への配慮等大学としての社会的責任を果たすための意識啓発を行う。また、必要に応じて制度や組織を見直す。	85	安全保障貿易管理にかかる体制を整備するとともに、教員に対して周知を図る。また、技術の提供及び貨物の輸出入について適切に管理する。	B	前橋工科大学安全保障輸出管理規程及び安全保障輸出管理に係る書類の様式やマニュアルを制定し、学内のグループウェアにおいて教職員に周知を行った。令和2年度は対象案件2件について、関連する法令及び学内規程に則り、教職員が行う外国との取引について安全保障上の確認及び承認の手続きを行った。			
		86	教職員を外部研修に参加させ、そこで得た知見をフィードバックする。	B	大学セミナーハウスや公立大学協会などが主催する研修会やセミナーに延べ11人の教職員が参加した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催となる研修も多かったが、その利点として、移動を伴わないことから、多くの教職員が研修会に参加することができた。新規採用教員の教育力の習得を目的として、総合デザイン工学科の赤間助教が大学セミナーハウス主催の「新任教員研修セミナー」（3日間のオンライン開催）に参加し、11月に開催した学内のFD/SD研修会で報告を行った。			
		87	令和元年度に実施したハラスメント研修の成果や法改正等の状況を踏まえ、ハラスメントを受けた学生及び教職員のサポートを組織的に実施するための体制構築について検討する。	B	4月にハラスメント相談員9人を任命し、学生及び教職員に周知した。男女、老若等、多様な属性の相談員を配置し、相談しやすい体制を検討したことから、9月から相談員を11人体制とし、学生及び教職員からの相談に対応した。ハラスメント相談員の知識習得のため、9月に2人の相談員が早稲田大学アカデミックソリューション主催の「大学におけるハラスメント防止セミナー」に参加した。			
【担当者（計画遂行責任者）：FD委員会、事務局】								